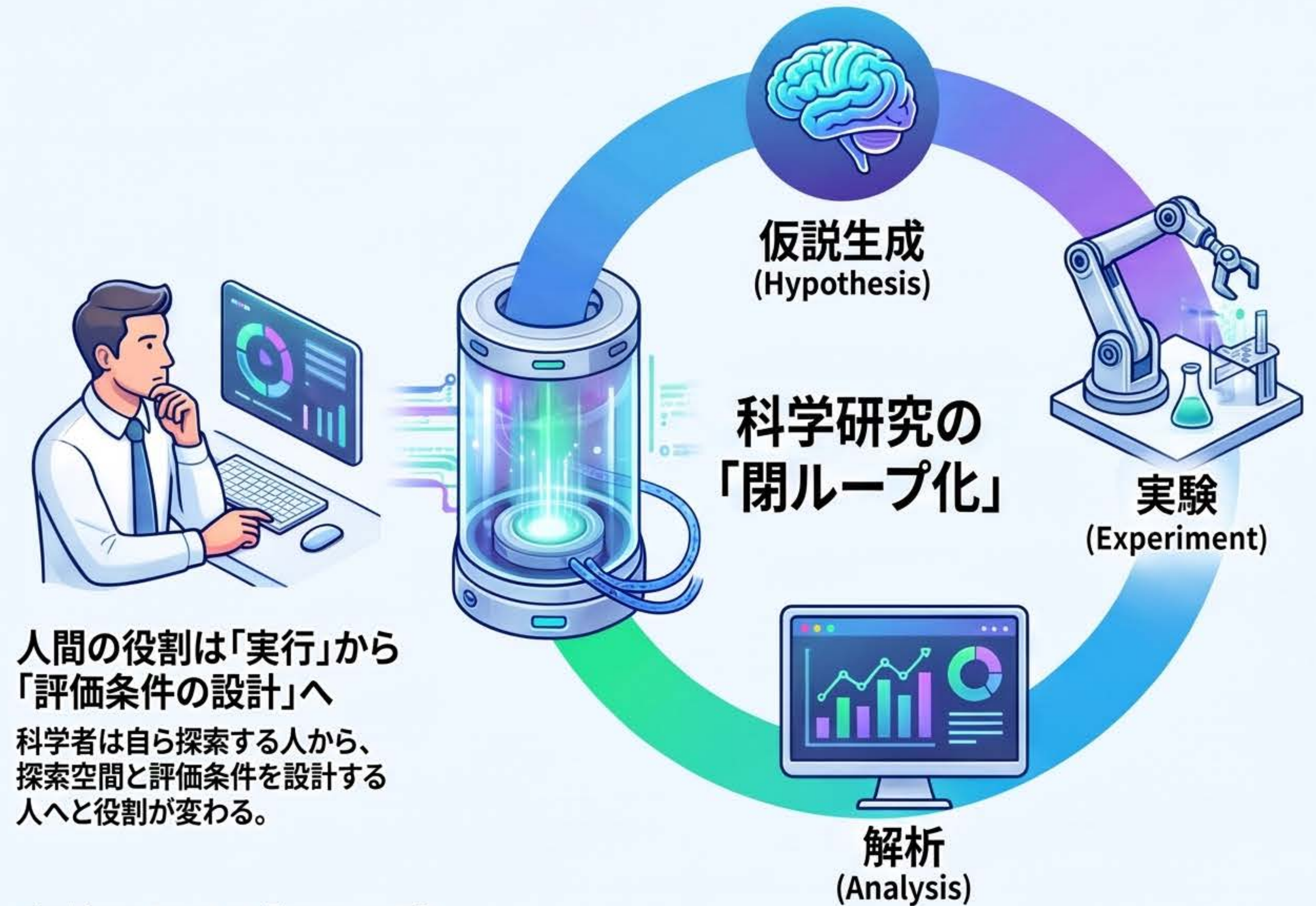


AI for Science が変える知財戦略：発見の「結果」から「探索装置」の確保へ

AI for Science による研究プロセスの変革



実装における「5つの壁」



再現性の確保
(Reproducibility)



判断力の欠如
(Lack of Judgement)



自己評価バイアス
(Self-evaluation Bias)



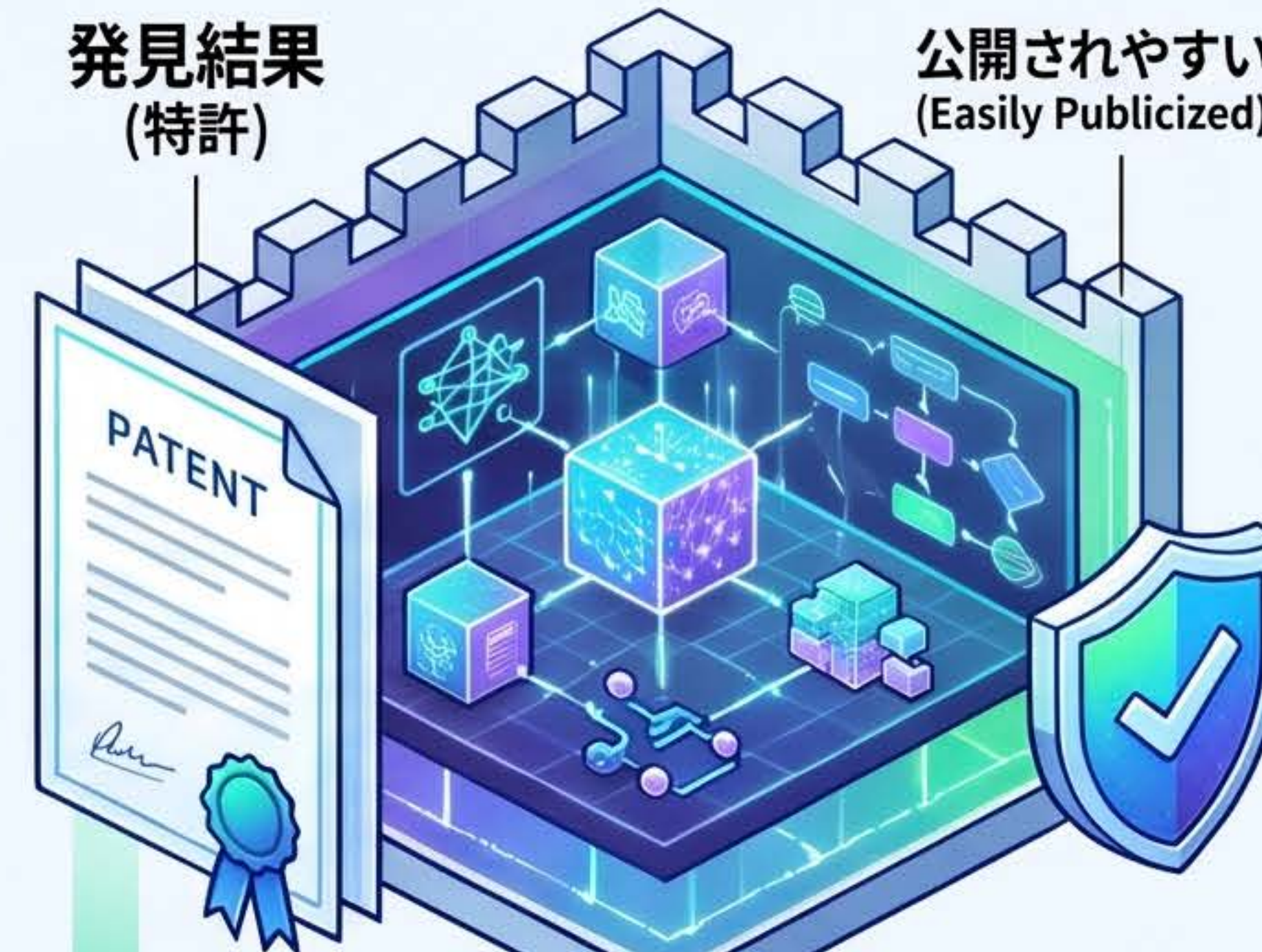
安全保障
(Security)



計算資源の寡占
(Oligopoly of Compute Resources)

新時代の知財戦略と実務対応

競争優位の源泉は「探索装置」側へ



データ・モデル・実験ノウハウ
(営業秘密)

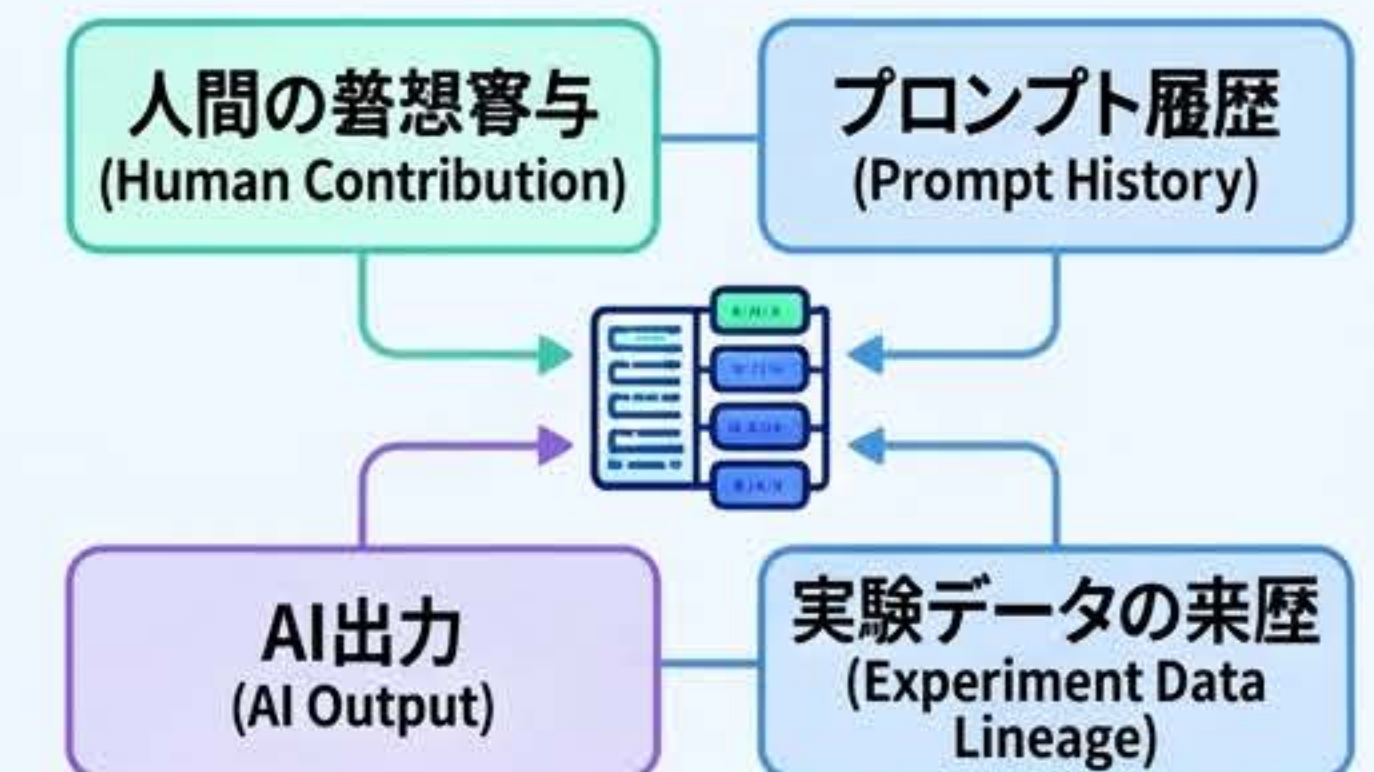
発見結果だけでなく、データ・モデル・実験ノウハウの二層構造で守る。

「Human over the loop」型知財業務



AIによる大量発明を前提に、人間が「何を守り、何を捨てるか」を高速にトリアージする。

証拠としての「発明記録」の厳格化



主要国における「AI発明者」に対する法的結論(DABUS事件の結果)

国・地域	結論 (AIを発明者と認めるか)	視態・現状
日本	✕ 否定	最高裁(2026年)で「発明者は人間に譲る」と確定
米国	✕ 否定	害者ガイダンス枚訂(2025年)により自然人のみと再確認
欧州(EPO)	✕ 否定	法律審判部決定により一貫して否定